

# 令和8年6月第2回 木島平村議会定例会 行政事務一般質問通告書

## 【木島平村議会議員 江田 宏子】

質問事項	質問要旨	答弁者
<p>1. 学校・保育園の給食について</p>	<p>近年、学校給食においては、地元農産物の活用や食育、安全安心な食への関心が高まっている。</p> <p>また、国による給食費無償化への支援が進む中、自治体独自の取組を進めやすくなる側面もあると考える。</p> <p>本村の学校給食では、いつの頃からか、栄養教諭が生産者との連絡調整や集荷等まで担うようになり、大きな負担となっていた。</p> <p>この課題解決に向け、昨年度から、教育委員会の子育て支援課と農業振興公社が連携し、農業振興公社に「農家支援係」を配置し、直売所で販売する農産物等の集荷と併せて、給食食材の集荷も担う体制整備を進めることになった。</p> <p>そこで、次の点を伺う。</p> <p>① 農家支援係による、給食への供給体制整備は進んでいるか。現状と今後の見通し、集荷の委託費についての考えは。</p> <p>② 高齢化等により、給食への出荷者が減少する中、「少量なら出せる」という小規模農家や兼業農家、家庭菜園等も含め、新たな出荷者の掘り起こしが必要と考えるが、どのように進めていく考えか。</p> <p>③ 保育園の給食における地元農産物の活用状況と供給体制は。</p> <p>④ 国による給食費無償化への支援が導入されたが、物価高騰の影響により、献立内容への影響も懸念される。</p> <p>一方、国からの支援が入ることで、給食の質の向上や地元農産物の活用など、本村独自の施策にも取り組みやすくなる側面があると考え。物価高騰下においても、子どもたちに安全で満足感のある給食を維持するため、村独自の支援や取組を行う考えはあるか。</p> <p>⑤ 近年、食の安全への関心が高まる中、ネオニコチノイド系農薬については、胎児や乳幼児の神経発達等への影響を懸念する研究や指摘もあり、EUでは使用が制限されているものもある。</p> <p>また、佐渡市では、生態系への影響も踏まえ、JAが率先してネオニコチノイド系農薬の販売を中止し、JAが扱う米について全面不使用を実施している事例もある。</p> <p>本村では、学校給食の米に特別栽培米を使用し、月1回有機米も導入しているが、子どもたちが日常的に口にする給食については、健康への影響が懸念される農薬や食品添加物等への配慮も重要と考える。</p> <p>給食で使用する食品に対する、農薬や食品添加物等の安全性について、どのような認識を持っているか。</p>	<p>村長 教育長</p>

# 令和8年6月第2回 木島平村議会定例会 行政事務一般質問通告書

## 【木島平村議会議員 江田 宏子】

質問事項	質問要旨	答弁者
<p>2. 高齢者福祉の法改正による影響と村の施策について</p>	<p>高齢化や人口減少が進む中、介護人材不足や介護サービス事業所の維持、独居高齢者への支援など、高齢者福祉を取り巻く課題は深刻化している。</p> <p>そのような中、現在、国会では「社会福祉法等の一部を改正する法律案」が審議されており、人口減少地域における介護サービスの柔軟化など、大きな制度見直しが進められようとしている。</p> <p>一方で、「特定地域」として手を挙げた場合のサービス水準の低下や地域格差の拡大、公的責任の後退などを懸念する声も上がっている。そこで、法改正への認識と併せ、本村における高齢者福祉の課題と今後の対応について伺う。</p> <p>① 今回の「社会福祉法等の一部を改正する法律案」について、村としてどのような影響を想定しているか。</p> <p>また、介護サービス提供体制の柔軟化により、サービス水準や職員配置基準の低下につながる可能性について、本村としての見解、見通しを伺う。</p> <p>② 法改正により、市町村業務や財政負担が増加する可能性について、どのように考えているか。</p> <p>また、国・県に対し、財政支援や人材支援を求めていく考えはあるか。</p> <p>③ 本村における介護人材不足や介護従事者の高齢化の現状をどのように認識しているか。</p> <p>また、10年先を見据えた介護人材の確保についての見解は。</p> <p>④ 独居高齢者や身寄りのない高齢者への支援について、現在の課題と今後の対応は。</p> <p>また、介護保険制度だけでは支えきれない生活課題（移動、買い物、見守り、孤立など）への対応を、今後どう強化していくか。</p> <p>⑤ 高齢者施策について、福祉分野だけでなく、交通・住まい・地域づくりと一体的に進めていく必要があると考えるが、見解は。</p> <p>⑥ 高齢者が「支えられる側」だけでなく、地域の担い手として関われる仕組みづくりも重要と考えるが、見解は。</p>	<p>村 長</p>

# 令和8年6月第2回 木島平村議会定例会 行政事務一般質問通告書

## 【木島平村議会議員 江田 宏子】

質問事項	質問要旨	答弁者
<p>3. ファームス木島平の再整備方針について</p>	<p>ファームス木島平の再整備計画について、現在も慎重な意見や反対意見が少なくないことから、現段階では機能・規模を抑えた計画となっている印象を受ける。そして、人口減少や高齢化、店舗減少など、地域経済の縮小が進む中、単なる維持管理的な発想では、地域の活力はさらに失われていくのではないかという危機感も強く感じる。</p> <p>そのため、明確な将来像と戦略性を持ちながら、地域活性化や地域づくりにつながる拠点として、ファームス木島平をどのように育てていくかが重要ではないかと考える。</p> <p>私はこれまでも、「どうすれば地域活性化につながる可能性を広げられるか」という前向きな視点や、地域の人が関わりながら育てていく地域づくりの重要性について、様々な観点から質問してきた。</p> <p>特に、ファームスについては、単なる老朽化対応ではなく、村民の居場所、多世代交流、地域経済循環、関係人口創出などを含めた「地域の拠点」としていく視点が重要であり、中途半端な整備では十分な効果につながりにくいのではないかという指摘もしてきた。</p> <p>しかし、現在、村が示している方向性は、食堂・カフェ・直売所プラス小規模なスペースを中心とした縮小型再整備であり、「必要があれば将来増築」という考え方である。</p> <p>集客施設は、最初にどれだけ魅力や期待感を持ってもらえるかが重要であり、中途半端な規模や機能では、かえって来訪者減少や地域活力低下につながり、将来的な展開の可能性そのものを失う懸念もある。これまでのファームスの経過もそのような課題を示しているのではないか。</p> <p>ファームス建設は、過去、大きな反対の中で進められた経緯があり、現在もなお、再整備に不安や懸念を持つ村民は少なくない。</p> <p>だからこそ今後は、行政だけで進めるのではなく、村民との対話や参加を重ねながら、「皆で育てる道の駅」「地域づくり」という視点で進めていくことが重要と考える。</p> <p>そこで、次の点について見解を伺う。</p> <p>① 村は、ファームス木島平を今後どのような役割として位置づけていく考えか。改めて伺う。</p> <p>② ファームス木島平の経済効果・地域波及効果について、現状をどのように見ているか。</p> <p>また、今後の再整備や運営によって、どのような経済効果・地域波及効果を見込もうと考えているか。</p>	<p>村 長</p>

# 令和8年6月第2回 木島平村議会定例会 行政事務一般質問通告書

【木島平村議会議員 江田 宏子】

質問事項	質問要旨	答弁者
	<p>③ 現在示されている整備方針で、「地域経済循環、多世代交流、関係人口創出、地域のにぎわい、村民の居場所づくり」など、経済効果や地域波及効果は、十分実現可能と考えているか。</p> <p>④ 今後、若者・高齢者・移住者・農家・商店など、多様な村民が関わりながら、「皆で育てる道の駅」として構想していく考えはあるか。</p>	